

埔里 Butterfly 交響楽団

「槌音プロジェクト」友情出演と交流の旅・2014.11.16-21

音楽を通して触れ合った 6 日間・成功裡に終わる！

16 日

廖嘉展団長、顔新珠相談役、5 人の演奏団員（プロの首席団員 3 名と高校生の団員 2 名）など、埔里 Butterfly 交響楽団の総勢 11 名は、「槌音プロジェクト」友情出演と交流のため 11 月 16 日来日した。東京赤坂のホテルに通訳の王雪雯さんと被災地市民交流会から垂水英司（神戸）が合流、「槌音プロジェクト」の竹森道夫さん（東京）も加わって、とりあえず近くの居酒屋で結団式ということになった。



居酒屋出結団式(左前・竹森さん)

17 日

明るく 17 日午前中は銀杏の黄葉を見ようと東大へ。今回の旅は演奏と移動でびっしりのスケジュール、この隙間だけが唯一のフリータイムだった。

午後 3 時には、リハーサルのためサントリーホールへ。本番会場のブルーローズ(小ホール)の舞台に立った若い 5 人の団員は、緊張もせずリハーサルを楽しんでいる様子だ。「さすが台湾人やな。」



リハーサル風景

6 時半には開場だ。そのころになるとさすがざわついてくる。何人かの人たちが開場前から入場を待って列を作っている。大きな花輪を届けてくれた台北駐日代表処の朱文清文化センター長と詹秘書も到着した。また、台湾のマスコミ関係者も取材に訪れた。来場者は予想を超え、間もなく開演という頃には用意した椅子が足らなくなるほどだった。(約 400 名)

7 時開演。「今日はサプライズの出演者があります（堤剛サントリーホール館長がチェロ演奏を買って出た）」という司会の竹森さんの紹介からコンサートは始まった。埔里 Butterfly 交響楽団弦楽五重奏のメンバーは 4 番目に登場した。華やかな舞台衣装に身を包んだ彼女らは、見違えるようだ。感極まった



華やかな舞台衣装に身を包んだ本番演奏（駐日代表処 HP から）

様子の廖感団長らが演奏を見守る。

休憩を挟んで、「神戸・台湾・大槌をつなぐトークセッション」で堀内正美さん、廖嘉展さん、臺隆明さんがそれぞれ発言。その後、バイオリン、ホルン、金管五重奏、さらには合唱、ジャズなど、多彩な演奏が続いていく。最後「ふるさと」の合唱で終わった時は10時をかなり過ぎていた。主催のメンバーにとっても、今回は予想を超える充実したコンサートとなったようだ。

18日

18日は、大槌への移動日。9時8分東京発の新幹線で一旦盛岡まで行き、そこで釜石線に乗り換えると釜石に13時54分着く。これは時間効率のいい、ちょっとした「裏技」だ。この日は被災して再開した小川旅館でお世話になる。夜は用意されたたくさんの料理を食べながら、コンサート打ち上げという形になった。「ご苦労さまでした。」明日からは、交流が中心だ。「リラックスしていきましょう！ 輕鬆(チンソン)！輕鬆(チンソン)！」



くつろぐ団員たち

19日

19日は、朝9時に大槌町長を訪問した。廖団長が町長を訪れるのは、一昨年の壁画制作のとき以来二度目である。終始、リラックスした雰囲気で見聞交換した。小さな町で蝶や音楽を通して復興しようとしている埤里の経験に、町長も大きな関心を持っていただいたようだ。夜のコンサートのご案内をして辞した。



大槌町長室で

この後、臺さんの運転と案内で大槌町内を視察へ。まず城山へ上がった後、旧大槌町庁舎など、いまだ癒えない震災の傷跡を見て回る。説明する臺さんの言葉の重みに台湾の人たちも感じるどころがあったようだ。

昼食は「きらり商店街」の「みかドン」へ。廖さんらが壁画で大槌に滞在したときに縁ができた居酒屋さんで、以来台湾の仲間が何度か寄っている。今回は団員の一人がバイオリンの演奏で再会を祝った。その後、壁画を描いたカリタス大槌ベース（現在は解体された）のオーナー道又さんのところへ。大ヶロ公営住宅、小槌神社などにも寄った後、一旦「三陸花ホテルはまぎく」に戻る。



昼食で即興演奏

4時30分からは大槌中学吹奏楽部の皆さんとの交流。大槌小学校と共に同じ敷地に建て

られた仮設の学校である。教室に集まった部員 20 名の前で演奏した。「この曲の名前は?」「この曲に出てくる動物は?」第 1 バイオリンの団員が問いかけるが、中学生からはなかなか答えがない。しかし、帰りぎわには打ち解けだした。気持ちは通じていたのだ。「台湾の皆さん、日本人は恥ずかしがり屋なんですよ。」



大槌中学学吹奏楽部との交流

「三陸花ホテルはまぎく」は、震災で被災した旧浪板観光ホテルが改名して、2013 年 8 月約 2 年半ぶりに営業を再開したホテルだ。このロビーはコンサートに適しており、「槌音プロジェクト」の縁で寄贈されたピアノも設置されている。8 時から始まったロビー・コンサートには、町民や泊り客の方々、それに大槌町長も出席いただいた。台湾の泊り客も偶然聞きつけ、最前列で鑑賞していた。最後の曲が終わってアンコール、ピアノの演奏も加えて「千の風になって」が演奏された。思わぬ台湾からの贈り物に皆さんも満足げであった。



ロビー・コンサート終了後（前列中央・大槌町長）

20 日

今日は、実質の最終日。大槌からバスで被災地に沿って南下し、大船渡と石巻で演奏・交流し、仙台に到着後さらに新幹線で東京に戻るという強行軍だ。

8 時 30 分ホテルを出発、10 時にカリタス大船渡ベースに着いた。ここは台湾との交流の原点となった神戸たかとり教会の神田神父の縁による繋がりだ。そのまま平林仮設住宅に向かう。早速、お年寄りが集まった集会所でミニコンサートを開催した。小さい部屋でチェロ以外は立って演奏、終了後お茶とお菓子で交流し、まさに手に届くような身近な音楽に触れる場になった。



平林仮設集会所でのミニコンサート

11 時 30 には、次の石巻に向かう。昼ごはんの時間を節約するため、コンビニで弁当を買い込む。「人使いが荒くて本当にごめんなさいね。」途中、陸前高田を通ると、そこは一面かさ上げ工場の現場となっており、ベルトコンベアーが縦横に走っている。降りる間もなく、さらに石巻に向けひた走る。

2時30分定刻に石巻につく。石巻はこの2年間アートプロジェクトで台湾との交流を続けてきた。そのキーマンが石ノ森萬画館指定管理者、石巻文化協会会長でもある西條さんで、今日も出迎えしていただいた。すでに、コンサート会場としてみやぎ生協 文化会館「アイトピアホール」を用意してくださっていた。次々と市民が集まって来る。最初に西條さんからDVD（被災当時の状況）の紹介と挨拶があり、続いてコンサートに移る。

これまでと同じように、「この曲の名前は？」「この曲に出てくる動物は？」第1バイオリンの団員が問いかけるが、即座に「モーツァルト」「猫」と答えが返って来る。これは失礼、ここの皆さんには少し簡単すぎたかな。和気あいあいとコンサートは進む。アンコールを求める拍手も堂に入っている。最後はもう時間ですと打ち切って、蝶々の手真似をしながら集合写真を撮って「再見！」。これまでの交流の積み重ねを感じさせるひと時だった。



蝶々の手真似をしながら集合写真（前列左から2人目・西條さん）

石巻から高速道路で仙台に向かう。さすがにほとんど全員眠りに入った。順調に仙台駅に到着。新幹線に乗り換えて東京駅へ。ここで頑張ってくれた通訳の王雪文さんと私は次の日所用があるためお別れすることに。「後は、皆さん自力でお願いします。これは皆さんの旅行能力を高めるための企画です。」というのは、もちろん冗談交じりの言い訳。

21日

10時33分池袋発の成田エクスプレスで空港へ。この時、東京在住の竹森さんが見送りに行ってくださいました。これには台湾の皆さんも感激。

ともかく今回の音楽を通して触れ合った6日間・成功裡に終わったとっていいでしょう。



池袋駅で「再見！」

文・垂水英司

（関係者のFBなどの写真を使わせてもらいました。）

埔里蝴蝶交響樂團 義演感動日人

2014 年 11 月 18 日 04:10 黃菁菁／東京 17 日電

311 東日本大地震後，台日民間交流更加密切。曾遭震災重創的南投「埔里 Butterfly（蝴蝶）交響樂團」17 日應日本岩手縣之邀，參與在東京三多利音樂廳舉辦的第 3 屆「槌音 Project」音樂會，為岩手縣的災區大槌町興建音樂廳募款義演。這是埔里 Butterfly 交響樂團成立以來，第一次出國為災民義演，19 日也將赴大槌町、大船渡、石卷等地等重建區巡演。



南投「埔里 Butterfly（蝴蝶）交響樂團」，17 日在東京三多利音樂廳義演。（黃菁菁攝）

「埔里 Butterfly 交響樂團」在三多利音樂廳表演了 15 分鐘，曲目包括協奏曲集「韋瓦第四季－夏 第一樂章」、「台灣四季－西北雨」及「台灣民謠組曲」。音樂廳的資深音樂製作人竹森道夫表示，「台灣人能為日本災區如此盡力，真的非常感謝！他們的演奏真是太棒了！感情也非常融入。」

這次到日本義演的五重奏團員中，除了三位首席團員許漱卿、蔡其恩、李宜臻之外，還有兩位高中女孩，小提琴鍾璟楸和林淳芸。鍾璟楸說：「很高興可以來這個音樂廳表演，這裡的音效很好，拉起來很開心！」。林淳芸則說：「311 大地震看到新聞報導很大，覺得很遺憾，這次能夠幫點忙，真的很開心！」

率領 Butterfly 交響樂團訪日的團長，也是「新故鄉基金會」董事長廖嘉展表示，「這次的選曲加入了台灣的元素，而且用新的編曲方式，在悲的情感中帶有創新，希望能讓災區民眾有所感動，從音樂的感動中，找到新的力量。」

「受災地市民交流會」的義工垂水英司表示，阪神大地震 10 周年起，就與「新故鄉基金會」交流至今。2008 年原建在神戶市鷹取社區的紙教堂移築到南投埔里，2012 年 8 月埔里藝術家赴大槌町進行「希望之樹」大槌基地彩繪行動等。他說，希望這次義演能成為受害地重建的契機，盼台日受災地能進一步為重建復興交流。